

平成24年4月27日

大村秀章愛知県知事殿

愛知県の黒塗公用車廃止の提言と質問

名古屋市民オンブズマン
代表 新海聰
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-7-9
チサンマンション丸の内第2 303
TEL 052-953-8052 FAX 052-953-8050

名古屋市民オンブズマンは大村愛知県知事に愛知県の黒塗公用車廃止を提言します。後述するような意識の公務員にはこのような改革は出来ません。あえて選挙で選ばれた知事のせいだんを求める次第です。

愛知県にはいわゆる黒塗公用車が20台あり課長以上の職員が利用していることはご承知のことと思います。

これらのいわゆる黒塗公用車はセンチュリーないしクラウンの5人乗り乗用車17台と6~7人乗りエスティマ3台の20両で、総務部財産管理課が管理し「本庁公用車予約システム」(運転士付)によって運用されています。

このシステムの8項で「使用者は来客及び課長級以上としているが、繁忙期等は来客及び部局長を優先する。」とされていることが課長級使用の根拠とされています。

民間企業では1990年頃のバブル崩壊以降幹部用黒塗車を廃止あるいは極端に減車しています。また、それ以前でも民間企業で課長以上が運転士付き黒塗車を使用することはあり得ません。したがって上記した愛知県の黒塗公用車運用は県民には極めて非常識に思えます。

この点についてわれわれは去る3月15日財産管理課の担当者に考え方を聞きました。

担当者の認識は、黒塗車は「本庁公用車予約システム」によって運用しているので、課長級以上の職員利用に問題はない。実情も有効に効率よく運用している、というものでした。民間企業での黒塗車の現況についてはよく知らないとのことです。

このような考え方には、数十年前の黒塗車が権威の象徴であり、また車の運転が特殊技能とされていた時代の習慣が踏襲されている官公庁独特のものであり、運転が市民の常識となり、車が市民の足となった現在では通用しないものです。

黒塗車が必要とされる要件として、緊急時の対応や重要な来客への応対があげられます。しかし、緊急時の対応にはタクシー無線が普及した現在、タクシーやハイヤーを利用する方が遙かに有効です。来客の送迎も同様ハイヤー十分ですが、特に丁重な送迎を要する賓客には知事公用車での送迎が最も敬意を表す対応と喜ばれることでしょう。なお、われわれは知事には専用車が必要と考えています。

主要幹部用にどうしても黒塗車が必要ならば、車だけ用意して幹部が運転すればいいのです。民間企業では常識です。

黒塗車の存廃問題は費用対効果とか業務効率などの問題ではありません。課長までが平然と運転士付き黒塗車を乗り回し納税者である県民に対してなんらの負い目も感じないという県職員の意識が問題なのです。知事の手足となるべき職員がこのような上から目線、相変わらずのお上意識では知事が目指す地方からの改革や中京都構想など出来ようはずがありません。

敢えて運行の効率などに触れるとすれば、昨年度の実績で知事専用車以外の黒塗車は平均して1日0.73回出庫しています。担当者は1日に1回に満たない稼働状況を良好と見ると言いますが、われわれには1日1回の出庫さえない運転士付き黒塗車を保有する必要があるのか大いに疑問に思います。また、行き先についても豊橋など主要交通機関が利用出来る所へ黒塗車で出かけることは効率上いかがなものでしょうか。

ともあれこのような費用とか効率などの視点は問題の本質ではありません。あくまで県職員の意識改革をめざして黒塗車の廃止を提言するものです。

黒塗公用車など微々たる問題と捉えられがちですが、実は日本の官公吏が持つ官尊民卑の優越意識の現れと言えるのです。

まさに官は民に対して優遇されて当然と考える官尊民卑意識が黒塗公用車の使用を当然と考えさせるのです。

このような公務員による公金の巧妙な流用は自ら作った規則に守られているため訴えられる危険はありません。

なお、2012年1月にわれわれが名古屋市保有の黒塗り公用車に対して起こした住民監査請求に対し、名古屋市監査委員ですら以下の程度は述べています（平成24年3月22日付監査決定）。これに引き換え、愛知県がなんら問題ないと言っているのはおかしいのではないかでしょうか。

しかしながら、黒塗車の稼働率についてみると、現状が決して高いとはいえない、各局室が黒塗車を利用する際に用いる予約システムにおいて、台数や時間に余裕を持たせて予約しがちであるという状況からみても、より効率的・効果的な予約方法のあり方を検討することにより稼働率をさらに向上させる余地はあると考えられる。秘書課においては、黒塗車を利用する各局室と調整し、黒塗車の稼働率の向上に向けて、さらに一層努めるべきである。

一方で、秘書課はこれまでに名古屋市の行財政改革の方針に従って、正規職員の退職にあわせて公用車運転業務の見直しを進めてきており、その結果、秘書課の黒塗車は一定台数削減されてきたところである。しかし、運転士の退職に合わせて台数を削減するということだけでは、賓客や職員の交通手段及び緊急用車両としての活用などの黒塗車の保有目的が考慮されているとは思われない。黒塗車の必要性を考慮すると、台数については、運転士の処遇により決めるのではなく、秘書課の黒塗車をどのように運用すべきかという観点からの総合的な検証により定める必要があると考える。そのうえで黒塗り車の台数を削減する必要があれば、運転士の退職を待つことなく柔軟な配置転換を含めた早期の対応が求められることになる。

いずれにしても、今回の請求内容を踏まえ、専用車だけでなく共用車を含めた秘書課の黒塗車のあり方について、あらためて名古屋市全体として検証したうえで、なお一層の行政の効率化・合理化に努めるよう強く望むものである。

この悪弊を糾しうるのは公選された首長しか有りません。

「まず隗より始めよ」です。英断をもって足もとにある黒塗車を廃止して下さい。知事の政治主導を実証する最適の課題で有ると信じます。

この提言について知事のお考えをお聞かせ下さい。ご回答は出来得れば5月25日までに上記事務局までお願いします。

なおこの提言とご回答は公開させて頂きます。

（文中のデータや数値は面談時に県担当者から手交された文書に基づいています）